

宝小学校だより

ななさと

宝小学校学校だより

NO6

平成28年6月3日(金)

文責 小俣 一夫

林間学校特集号

林間学校に参加するにあたって…学校長より

～友だちと力を合わせて集団の絆を高めよう！～ から抜粋

今の皆さんは、日々いろいろなことに対して、自分で考え、その解決方法や取組を考えて、友だちや家族、先生に相談する中で、自分としての最善の方法で決定し、実行しているはずです。そのことが、結果として「うまくいくとき」と「失敗するとき」があるかもしれません。しかし、その取り組みは全て、皆さんのこれからの「生きる力」となって身につけているのです。

今回の「林間学校」は、自分をさらに一回り成長させる絶好の機会であると思います。一口に林間学校と言っても、皆さんにとっては初めて訪ねるところであったり、初めて見るものであったりすることだと思えます。しっかりと事前の取り組みのもとに、自分たちの計画に従って、実際に自分の足で歩き、自分の目で見て、肌で感じ、いわゆる「五感」を十分に働かせて、たくさんの体験、住んでいる宝地域との違い、その場所の人々とのふれ合いなど、普段の生活では経験できない、たくさんのことを学んできてください。そのことが、皆さんをさらに大きく成長させてくれるでしょう。

また、友だちとの人間関係を成長させる機会でもあります。一泊二日の集団活動を通して、友だちとの絆を深めるとともに、自立ある行動のとれる学級集団に高めてほしいと思います。班として、学級として、どのように取り組むことが最も良い方法なのかを、試行錯誤しながら行うことが大切です。そんな中に、今まで気づけなかった友だちの優しさを感じたり、決定力に驚いたりするかもしれません。

皆さんが決めた目標を達成し、一回り大きく成長し帰ってくることを期待しています。

集団の絆を高めることのできた林間学校！

林間学校のテーマ『楽しく助け合う 思い出に残る林間学校にしよう』

5月30日(月)～31日(火)一泊二日の日程により、「山梨県立ゆずりはら青少年自然の里」で5年生15名と引率職員4名が、林間学校を行いました。当日の朝は雨模様で、決められたプログラムができるか心配されましたが、結果としては全て順調に進めることができました。これもきっと、子どもたちの熱意と担任の普段からの行いの良さ(?)によるものと思います。これから、この二日間の様子をダイジェストでお伝えします。

5月30日(月) 第1日目

雨のため多目的ホールで開校式をしました。校長先生から、「地球に住んでいるといると晴れのときもあれば雨のときもあります。雨のときもまた良い経験になります。そして、臨機応変にすることが大切です。でもきっと自然の里に着く頃には雨も上がって、決めたプログラムができると思います。」という話がありました。

入所式では、自然の里の所長さんをはじめスタッフの方達があたたかく迎えてくださいました。入所式の後、ネイチャーゲームが始まりました。スタッフの方が出すヒントをもとに、どんな生き物が答えたり、ヒントカードを取りに行き生き物を当てたりしました。特に子どもたちが楽しんだのが、外のビオトープを使っの「隠れているもの探し」です。



入所式後、みんなでポーズ！

これは、自然には存在しない物を目を使って見つけるゲームです。子どもたちは自分の目をしっかり働かせ、ゆっくりゆっくりコースを進んでいきました。見つけても声に出さず、ゴールにいるスタッフに見つけた数を言います。すぐ見つかる物もあれば、3回見ても見つからない物もありました。「こんな所に10円があった」「この洗濯ばさみは、絶対わからないよ」など、子どもたちは驚いていました。

昼食を食べた後は、いよいよ「ウォークラリー」です。お天気は？校長先生の言う通り雨も上がり、無事始まりました。ウォークラリーのコースのこんぴら山周辺は、坂、坂、坂、たまに沢という約1時間のコー

スです。子どもたちは、元気に話したり、歌ったりしながら歩いているので、途中で待っていても子どもたちが近づいてきたことがよくわかりました。各チェックポイントに様々なクイズがあり、班で相談しながら答えを考えていました。中には、水の温度を当てる問題もあり、手を入れて「冷てー、絶対5度ぐらいだ」と言ったり、実際に袋に水を入れて持ち帰ったりしている子もいました。全員無事にゴールしたところで、クイズの答え合わせもしました。答えが合っていると「やったー」「やっぱりこれだった」など、子どもたちから大きな声が上がりました。

夕食後、いよいよ「キャンプファイヤー」の始まりです。火の神と火の守「感謝」「友情」「心」「協力」「信頼」の5つの火が点火され、ファイヤーストームが大きく燃え上がりました。キャンプファイヤーには、校長先生をはじめ、先生方、そして、今年も渡辺正司先生が来てくださいました。ボンファイヤーのメインは、各班が今まで練習してきたスタンツです。最初の班は「桃太郎殺人事件」、次は「怪盗山猫」、最後は「桃太郎の鬼退治」、どのスタンツにも子どもたちのアイデアが生かされていて、桃太郎や山猫の新しいイメージを感じることができました。子どもたちだけでなく先生方も一緒になって踊ったマイムマイムやジェンカも、みんなが一体となったものでした。クロージングファイヤーでは、小さくなった炎を見つめながら、詩の朗読や群読があり、一人一人の心の奥にみんなの声が残りました。



火の神から火の守へ



キャンプファイヤーの後は、子どもたちが楽しみ？にしていたナイトハイクです。校長先生をはじめ、先生方がお化けに扮し所々に隠れて、脅し役をしてくださいました。夜の自然の里に子どもたちの「ワー」「ギャー」と言う大きな声がこだましました。

その後お風呂に入り、それぞれが一日の反省をして就寝時間となりました。なかなか眠れずに、友だちとしゃべっている子もいましたが、疲れのため自然にしゃべる声も少なくなり無事に初日が終わりました。

5月31日(火) 第2日目

朝、鳥の声ではなく友だちの声で起きてしまった子も多くいたようです。「朝のつどい」でも、眠そうに体を動かしていました。ラジオ体操や国旗掲揚そして、上田先生の声で子どもたちも目が覚めたようです。朝食後の清掃では、どの子も進んで掃除をして、自然の里の方にもとてもほめられました。



そして、カレー作りと飯ごう炊さんが始まりました。飯ごう係、カレー係、サラダ・サイダー係に分かれて活動しました。飯ごう係は、所員の人たちの指導で燃し付けに使う杉っ葉拾いから始めました。集めた杉っ葉や枯れ枝、そして太い薪など、どのように置いたらよいかを教えてください、自分たちで考えながら置いていきました。火がついた後はその火を消さないように、枝や薪を足していきました。カレー係は、包丁の使い方も上手で、にんじんやタマネギなどきれいに切っていました。サラダ・



サイダー係は、食べやすいようにキュウリやキャベツを細かく切っていました。カレーもご飯もサラダもとても上手にできました。自分たちで作ったカレーライスやサラダの味は、格別なものになったと思います。

林間学校も、いよいよ最後の活動「勾玉作り」です。子どもたちは、四角い石を紙やすりを使って、服を真っ白にさせながらも自分の描いた勾玉の形に一心に削って磨いていました。最後につるつるになった勾玉を見て、子どもたちはとても満足した笑顔になっていました。自分で作った世界に一つしかない勾玉をきっと大切にすることと思います。



この二日間、子どもたちは自分たちの手で、計画したものを全てやりきることができました。退所式での子どもたちの顔には、やり終えた達成感と満足感が表れていました。この経験をこれからの学校生活に生かしていくことで、さらに成長してほしいと思います。

文責 高尾貞明